

ライスアイランド

RI weekly レポート

～ シリアル・ルネッサンス ～

<http://www.riceisland.co.jp>

< 雑穀の精穀・選別・調整 >

従来では生産現場で、旧型の精米機を改良した機械で皮を剥き、異物(ゴミ、石、着色粒など)の除去は目視と手選別で行っていました。これでは、コストがかかり価格が高くなってしまいます。

長野県の農家、田中さんの話しによると、自宅の物置の中にゴザを敷き、その上に1mmくらいのきびを並べ、何日もかけて一家総出でゴミ取りを行う。手間を考えると採算に合わん...とか。

RIの専用工場では精穀・選別調整ラインにおいて次のように調整して出荷しています。

精穀機：雑穀の皮を剥く。
撰石機：石、砂、金属片、ガラス、ごみ異物を取り除く。
研削仕上げ機：磨きをかける。洗わなくても炊くことができるようここで調整。
色彩選別機：石、ゴミ、剥けなかった雑穀、着色粒などを取り除く。
少計量ロタリーパッカ 目視検査 ウェイトチェッカー 金属探知機 梱包

< 皮を剥く >

精穀機という機械名は、精米機に対して付けたRIでの呼び名です。雑穀は皮の付き具合が違うため、均一に剥きにくいところがあります。きびの調整を始めた頃は、循環型精米機で剥こうとしていましたが、うまくいきませんでした。次に圧力型の脱皮機など数台の試験精穀をしました。結局たどりついたのは、回転式初摺り機でした。品物を回転させ摩擦により脱皮させます。

< 洗わなくて炊ける雑穀 >

洗わずに炊ける無洗米があるように、雑穀も洗わないで炊けるよう調整ができないかが課題でした。摩擦式、研削式縦型、横型などの精米機を探して、いきついた機械は、今のところ研削仕上げ横型精米機です。

< 小粒の選別の難しさ >

冒頭のように生産現場では、大変な労力でした。農業を後継者に譲り、少々空いたスペースを利用して、おじいちゃん、おばあちゃんがきび、あわなど作っている程度です。「食べてくれる人がいるなら、おら達はつくりつづけるだあ」...とか

雑穀栽培地区を取りまとめている農協で、選別作業を行っているところを拝見したことがあります。お米の選別機を改良して選別しているようですが、着色粒など取りきれず苦慮しているようでした。異物が混入していて販売店などから返品の手配もあるらしく、けっこう大変な様子です。

RIでは、大豆用の色彩選別機を、幾度と無く調整して、小粒なきび、あわでも、選別機能が保持できることがわかり現在に至っています。選別機は、色の濃さで判別する白黒選別方式です。

尚、今後2台の選別機の導入の予定で進んでいます。

白黒選別機をもう1台、物品の摩擦を利用して選別される機種1台を導入する予定をしています。

摩擦方式選別機は、物品の摩擦係数を利用して、異物を取り除きます。毛髪、糸くず、紙片などの軽いものに、より効果を発揮します。

雑穀の選別調整は、今後も大きな課題と考えて良い商品づくりに取り組んでいきます。

来週のRIレポートは、「ライスアイランドのTVCM計画」を予定しております。7/14のお届けです。

Emailでの発信も行っております。ご希望の方はチェックしてください